

# 稲作・畑作

営

農

情

報

## 水稻



### 刈り取りに向けた準備

#### 適期の刈り取り判断について

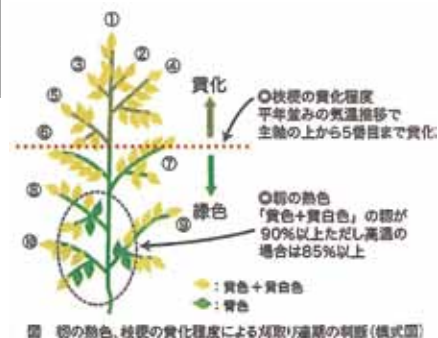
刈り取り時期は、出穂後日数や積算気温を参考に、枝梗や籾の黄化程度をよく観察し総合的に判断しましょう。

#### ■判断の目安

①出穂後の日数	早生種（あきたこまち等）：出穂後45日頃 中晩生種（めんこいな・ひとめぼれ等）：出穂後50日頃
②出穂後の積算気温	早生種：950～1050℃（1100℃を超えると胴割粒増加） 中晩生種：1050～1150℃（1200℃を超えると胴割粒増加）
③出穂後の積算日照時間（特に日照不足年）	収量水準540kg/10a（全穂数28～30千粒/m <sup>2</sup> ）：190～255時間 収量水準570kg/10a（全穂数30～32千粒/m <sup>2</sup> ）：200～265時間 収量水準600kg/10a（全穂数32～34千粒/m <sup>2</sup> ）：215～280時間
④枝梗の黄化程度	主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃
⑤籾の黄化程度	最終的には籾の黄化程度90%で決定

#### ○出穂期別積算気温到達予想日（9月4日現在）

出穂期	能代アメダス				
	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
7月31日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月17日
8月2日	9月10日	9月12日	9月15日	9月17日	9月20日
8月5日	9月14日	9月16日	9月19日	9月21日	9月24日



※9月5日以降は、平年値を使用。

## ねぎ



#### ○長ねぎ栽培について

#### 稲刈り前後の病害虫防除を必ず行いましょう!!!

##### 1. 秋冬期に再発する病害（さび・べと病）の防除

###### ① さび病対策

(J)アフェットフロアブル、(K)オンリーワンフロアブル、(K)ラリー水和剤、(L)ジオゼット水和剤など

###### ② べと病対策

(R・B)リドミルゴールドMZ、(R・E)フォリオゴールド、(U)レーバスフロアブル、(W・E)プロポーズ顆粒水和剤 など

###### ③ さび・べと病同時対策

(K・B)テーク水和剤、(S)アミスター20フロアブル、(S)メジャーフロアブル、(A)ヨネポン水和剤など

※系統を変えて散布することで効果UP!!

A：銅剤、B：有機硫黄剤、E：有機塩素剤、J：コハク酸脱水素酵素阻害剤、K：ステロール生合成阻

害剤、L：抗生物質R：フェニルアミド系剤、S：ストロビルリン系剤、U：カルボン酸アミド剤、W：その他の殺菌剤

##### 2. 黄色斑紋病斑（マダラ模様）対策 = 黒斑病・葉枯病の予防・防除を葉先枯れや、さび・べと病痕に黒斑病・葉枯病が多発しています。

特に、葉枯病は気温が低下すると黄色斑紋病斑になります。

発生時期が近づいてからの防除では殆ど効果が認められないため、定期的な防除が必要です。

また、収穫遅れが黄色斑紋病斑の発生を助長しますので、適期収穫を心がけましょう。

##### 3. ネギアザミウマ対策

7月下旬からの高温・干ばつにより、ネギアザミウマの発生が多くなっています。

稲刈り前 … 茎葉散布 + 粒剤

稲刈り後 … 茎葉散布

発生密度が高まれば、1回の防除では抑えることができません。7～10日間隔で散布。

また、系統が異なる剤の混用散布が効果的です。

例) アグロスリン乳剤(合ピレ) + ハチハチ乳剤(その他)

